

ご挨拶（金沢シンポジウム開催に寄せて）

一般社団法人 MOA インターナショナル
理事長 森 富士夫



今年も「これからの医療とまちづくりシンポジウム」を、多くの皆さまのご支援・ご協力のもとに開催できますことに、大きな喜びを感じております。

ますます加速する少子高齢化、社会保障制度のひずみと不安、生きる意味の見つけづらさなど、現代は、困難と痛みのただなかにあります。

私たち MOA グループでは、統合医療とその社会的展開に希望の光を見ながら、市民運動やボランティア育成に取り組むとともに、研究と議論の拡大に努めてきました。

おかげさまで、昨年は米国アリゾナ大学のアンドルー・ワイル教授や英国国営保健サービスのマイケル・ディクソン議長ら、国内外のリーダーを講師に迎えてシンポジウムを開くことができ、“ライフスタイルと全人的な健康”、“地域コミュニティの力と可能性”などの視点とメッセージが、想像を上回る反響をいただきました。

（過去のシンポジウムの概要はこちら）

[これからの医療とまちづくりシンポジウム 東京・京都大会](#)

[これからの医療とまちづくりシンポジウム 札幌大会](#)

この延長線上にあって、本年は地方行政、統合医療、倫理・死生観の各領域から、まさに得がたい講師をお迎えできることとなりました。

“人間とは”、“命とは”というテーマにじっくりと向き合いながら、健康づくり、コミュニティづくりに、多くの方と手を携え、さらなる一步を踏み出していきたいと念願しているところです。

医療・福祉・教育・農業・食育・芸術など、さまざまな実践・知見を融合して「新しいきずな社会」を切り開く--その一助となりますよう、真心込めて準備してまいります。